



## 春はすぐそこ

四宮 詠子

(北海道)

もうそろそろ行動制限もなくなるねランチの誘ひ友より届く

スーパの片隅に寄りて元同僚の愚痴を聞きをり早三十分

懐かずに大変だよと夫は言ふ保護犬迎へたしと告げれば

手を抜かず力を抜けと祖母言ひき言葉で今も守りてくれぬ

住み古りし家は他人のものとなり花柄レースのカーテン揺るる

温かなれば儚く消えゆくになぜそんなにも積もるのか 雪

次男宛て荷物送りぬ舞鶴の住所を書くも最後となりぬ

生きをれば六十六になるはずと初恋の人の齢数ふる

君が生きてゐたらと思ひ巡らせつつ夕飯作る如月八日

悩みある若き教師と話したりピンチはチャンスあなたらしくと

受験期のピリピリとした教室で降り止まぬ雪をただに見てをり

公立高校個人調査書提出し進路業務のやうやく終はる

終はるがに思ひし進路業務なれど追検査願ひ準備するけふ

愛犬が水飲むベイス早まりぬ待ち侘びてゐた春はすぐそこ

パッケージに心を解放する香りと書かれしリップクリームを買ふ

このごろの私

職場の若手から相談される事が多くなりました。正否を見極める判断力、ぶれない心をもたなければならぬと思つています。思案しながら動めた三十二年を振り返りつつ、今後の事を思う日々です。



## 福井来てみねの

内藤 丈子  
(福井)

このごろの私  
来年、敦賀開業の北陸新幹  
線。そして少女時代を越前で  
過ごした紫式部が大河ドラマ  
になる話題で今、福井は賑わ  
っている。自然の幸がたくさ  
んある越前・若狭に、ぜひお  
いでください。

ゆでたての越前蟹をくはへたる巨大恐竜福井にあらはる

全長が七メートルの恐竜は聖樹となるや粉雪あびて

はじめての雪を見るらむ新幹線駅で吼えゐる恐竜ロボット

ももづたふ敦賀に伸びる新幹線〈福井来てみねの〉の歌がながれる

来てみねの〈若狭の魚〉に〈おろし蕎麦〉〈ソースカツ丼〉おいしい福井

東尋坊ながめつつ食む甘えび井福井のブランド口にとろける

雪とかし新幹線がやってくる越前若狭に近づくひかり

空き家ふえひつそりとした路地裏の冷気をふつと猫が横切る

若き日の紫式部もあふぎたる越前の空けふも雪舞ふ

催馬楽に〈武生の国府〉と歌はれしふるさとはかつて竹生ゆる里

はるかなる時にとけつつ白雪は北国街道しづかにぬらす

コイン入れれば「よう来とつけたの」と話し出す無人の駅の自動販売機

箆筒町寺町ぬければ畑には白菜漬けをはじめる人ら

〈かがやき〉の車両はふかき海のいろ水仙の花が潮風に揺る

コトコトとだいこんを煮て立春の風花とかす越前にゐる